

評価	巨木名称	幹 周	樹高	所 在 地	天然記念物 指定
B	^{あんもん} 暗門のカツラ 写真 K-025	株周 12.5m	25m	青森県中津軽郡西目屋村川原平	なし
B	^{ししばし} 鹿橋の千年桂 写真 K-026	株周 12.0m	25m	青森県下北郡東通村浦野沢字鹿橋	村
B	縁結びのカツラ 写真 K-027	株周 M11.5m(1.3m 2007)	27m	北海道爾志郡乙部町字富岡	なし
B	藤坂のカツラ 写真 K-028	株周 12.0m	30m	兵庫県篠山市藤坂	県
B	^{すがさき} 洲河崎のカツラ 写真 K-029	株周 11.7m	28m	鳥取県日野郡江府町洲河崎	県
B	岩間寺のカツラ 写真 K-030	株周 11.6m	35m	滋賀県大津市石山内畑町	県
B	井戸神社のカツラ 写真 K-031	株周 11.6m	m	滋賀県犬上郡多賀町向之倉	町
B	岩崎の大カツラ 写真 K-032	株周 11.5m	40m	新潟県南魚沼市岩崎	県
B	赤倉のカツラ 写真 K-033	株周 11.1m	27m	三重県熊野市育生町赤倉	なし
B	^{うわの} 兔和野の大カツラ 写真 K-034	株周 11.0m	35m	兵庫県美方郡香美町村岡区	県
B	豊岡のカツラ 写真 K-035	株周 11.0m	25m	長野県長野市戸隠豊岡	県
B	^{あもう} 天生のカツラ 写真 K-036	株周 1.0m	25m	岐阜県飛騨市河合町天生	なし
B	板仕野のカツラ 写真 K-037	株周 10.6m	25m	兵庫県美方郡香美町村岡区	なし
B	シャロムの樹 写真 K-038	株周 10.6m	40m	群馬県みどり市東町沢入	なし
B	^{こがねゆかつらふどう} 小金湯桂不動 写真 K-039	株周 10.5m(1.3m 2008)	23m	北海道札幌市南区小金湯	なし
B	末沢の大カツラ 写真 K-040	株周 10.4m	30m	山形県最上郡最上町末沢	なし
B	^{みょうがさす} 明ヶ指のカツラ 写真 K-041	株周 10.3m	44m	埼玉県秩父市荒川日野	なし
B	^{ぐんざり} 軍刀利神社のカツラ 写真 K-042	株周 10.3m	48m	山梨県上野原市欄原字井戸	県
B	森の神様 写真 K-043	株周 11.0m	31m	北海道上川郡美瑛町忠別上川中	なし
B	藤九郎沢の千年カツラ 写真 K-044	株周 19.35m	不明	山形県最上郡鮭川村	なし
B	芦生下谷のカツラ 写真 K-045	株周 M12.6m(1.3m 2015)	25m	京都府南丹市美山町芦生芦生原生林	なし
C	稲荷神社の千本桂 写真 K-046	株周 30.0m	16m	岩手県花巻市大迫町内川目	町
C	^{はつせ} 初瀬のカツラ 写真 K-047	株周 28.4m	28m	愛媛県上浮穴郡久万高原町大成	県
C	井戸股沢のカツラ 写真 なし	株周 22.5m	35m	青森県西津軽郡深浦町国有林	なし
C	小井田の千本桂 写真 K-049	株周 21.3m	24m	岩手県二戸郡一戸町一戸小井田	町

評価	巨木名称	幹 周	樹高	所 在 地	天然記念物 指定
C	<small>うしお</small> 海潮のカツラ 写真 K-050	株周 M19.9m(1.3m 2007)	30m	島根県雲南市大東町中湯石	国
C	明神かつら 写真 K-051	株周 20.2m	32m	岩手県釜石市栗林町	市
C	地蔵鞍の大カツラ 写真 K-052	株周 19.6m	46m	山形県最上郡真室川町男龜山	なし
C	<small>くりさお</small> 栗沢の千本カツラ 写真 K-053	株周 18.4m	30m	秋田県由利本庄市鳥海町栗沢	県
C	<small>いとい</small> 糸井の大カツラ 写真 K-054	株周 M18.2m(1.3m 2008)	36m	兵庫県朝来市和田山町竹ノ内	国
C	高坂の大カツラ 写真 K-055	株周 M17.4m(1.3m)	20m	山形県最上郡真室川町高坂	なし
C	石橋のカツラ 写真 なし	株周 16.6m	22m	岩手県大船渡市日頃市町石橋	市
C	<small>たけざき</small> 竹崎のカツラ 写真 K-057	株周 16.5m	34m	島根県仁多郡奥出雲町竹崎	国
C	大久保の桂の木 写真 K-058	株周 15.5m	27m	新潟県長岡市古志東竹沢字大久保	市
C	<small>どうだに</small> 道谷馬頭観音のカツラ 写真 K-059	株周 14.5m	25m	兵庫県宍粟市波賀町道谷	なし
C	<small>べつぐう</small> 別宮の大カツラ 写真 K-060	株周 14.5m	27m	兵庫県養父市別宮	県
C	<small>x145</small> 坂上のカツラ 写真 K-061	株周 14.5m(3 株合計周)	25m	富山県南砺市利賀村坂上	市
C	小北川の大桂 写真 K-062	株周 13.8m	25m	高知県土佐郡大川村小麦畝	村
C	<small>こむろせんげんじんじゃ</small> 小室浅間神社のカツラ 写真 K-063	株周 13.3m	28m	山梨県富士吉田市下吉田	市
C	小野神社のカツラ 写真 K-064	株周 13.2m	不明	長野県塩尻市北小野宮前	県
C	<small>ちんせいむら</small> 鎮西村のカツラ 写真 K-065	株周 13.0m	30m	福岡県飯塚市建花寺字舞山	国
C	久保の大桂 写真 K-066	株周 13.0m	33m	宮城県気仙沼市久保	市
C	<small>うつろ</small> 空室のカツラ 写真 なし	株周 13.0m	28m	福岡県八女郡黒木町空室	県
C	<small>やまづみかつら</small> 山祇桂 写真 K-068	株周 12.8m	25m	岩手県花巻市大迫町内川目久出内	町
C	金山川の大カツラ 写真 K-069	株周 12.5m	30m	山形県最上郡金山町有屋	なし
C	広河原のカツラ 写真 K-070	株周 12.3m	34m	山梨県南アルプス市芦安	なし
C	小池のカツラ 写真 K-071	株周 12.0m	25m	岩手県二戸市福田字小池	市
C	<small>みかた</small> 三方の大カツラ 写真 K-072	株周 12.0m	25m	兵庫県丹波市氷上町三方	市
C	<small>しろうず</small> 清水のカツラ 写真 K-073	株周 12.0m	25m	富山県富山市八尾町清水	町
C	<small>ふなこ</small> 舟子のカツラ 写真 なし	株周 11.8m	20m	福島県会津若松市大戸町大川	なし

評価	巨木名称	幹 周	樹高	所 在 地	天然記念物 指定
C	^{しちざうじ} 七蔵寺の子持ち桂 写真 K-075	株周 11.5m	22m	長野県上伊那郡辰野町辰野	なし
C	粟田のカツラ 写真 K-076	株周 11.3m	30m	広島県庄原市東城町粟田	なし
C	^{あかつ} 赤津のカツラ 写真 K-077	株周 11.2m	30m	福島県郡山市湖南町赤津	国
C	大清水のカツラ 写真 K-078	株周 8.0m	25m	富山県富山市大清水	なし
C	大又のカツラ 写真 K-079	株周 11.1m	27m	三重県熊野市飛鳥町大又	なし
C	^{むらじ} 村権のカツラ 写真 K-080	株周 11.0m	40m	宮崎県東臼杵郡椎葉村下福良	なし
C	^{すげの} 菅野のカツラ 写真 K-081	株周 10.8m	20m	山梨県都留市大野字菅野	市
C	手水野のカツラ 写真 K-082	株周 10.7m	28m	大分県日田市上津江町川原	なし
C	^{さいのかみ} 妻の神の古木 写真 K-083	株周 10.5m	26m	青森県三戸郡南部町鳥谷	なし
C	大横のカツラ 写真 K-084	株周 10.3m	23m	徳島県美馬郡つるぎ町一字	町
C	^{うそこうち} 瀬河内のカツラ 写真 K-085	株周 10.1m	30m	福井県敦賀市瀬河内	県
C	福島大神宮のカツラ 写真 K-086	株周 M10.5m(1.3m 2007)	20m	北海道松前郡福島町字福島	なし
C	^{はしかみ} 端神の大桂 写真 K-087	株周 10.0m	20m	岩手県久慈市山根町字端神	市
C	^{ぼたるがみや} 螢ヶ宮の大カツラ 写真 K-088	株周 10.02m(1.3m 2008)	35m	福井県丹生郡越前町八田	町
C	^{わち} 和池の大カツラ 写真 K-089	株周 10.0m	27m	兵庫県美方郡香美町村岡区和池	県
C	川目の千本カツラ 写真 K-090	株周 10.0m	不明	岩手県盛岡市川目戸中	なし
C	田代のカツラ 写真 K-091	株周 10.0m	27m	大分県日田市前津江町柚木	市
C	荒谷の桂藤 写真 K-092	株周 10.0m	27m	岩手県九戸郡九戸村字荒谷	村
C	弘川の子本桂 写真 K-093	株周 10.0m	30m	宮城県本吉郡南三陸町歌津弘川	町



写真 K-001 日本一のカツラ ごんげんやま 権現山の大カツラ

カツラはもともと叢生する樹木で、分岐幹巨木とは評価方法を異にする。1.3m 地点が繋がっているかどうかという基準は当てはまらない。よって、株立ちカツラは全て株周表記とした。株周の巨大なものも多く確認されているが、実際は数字程の迫力は全くない。

その中で最も存在感があるのは、権現山の大カツラである。存在感の原因は、20m 近い幹周であるにもかかわらず、たった2分岐である事。細いひこばえが周囲を取囲むが、全く問題にならない。二本の主幹は上部で分岐するものの、何本もの株立ちのカツラとは明らかに迫力が違う。巨木 DB の幹周は20m であるが、地上 1.3m を細いひこばえを除いて測定した結果、株周 M19.3m であった。山形県新庄市の東、最上町の山中に「東法田の大アカマツ」とこの「権現山の大カツラ」が接近して存在する。日本最大級の巨木が同じ地域に二本存在する稀な地域である。

山側からの樹形(明確に根元2分岐である)▶





写真 K-002 日本一巨大感があるカツラ コモチカツラ

平成8年5月に石川県巨樹の会が確認したカツラで、この時の幹周の計測値は15.56mである。白山登山口である市ノ瀬の裏山、標高1320m地点に立つ。自然歩道の途中から道はないが、森の巨人たち100選に選定されて脚光を浴びた。珍しい樹形である。元々株立ちになっていたカツラで、西幹は6本程が癒着し大きな幹に成長、名前の由来である子株は南幹で根元より斜上する。北幹は上部で南幹と連理する奇妙な形。東幹は崩れたようで、根元に倒れ、この跡が大きな空洞として残っている(左写真)。見る方向によっては単幹樹に見え、根元に立って見る巨大感は一日本一のカツラである。



写真 K-003 境内日本一のカツラ やくしやうじ 薬照寺の大カツラ

日本のカツラの巨木はほとんど山地にある。薬照寺の大カツラは珍しく境内にあるカツラで、その中でも日本一の大きさを誇る。薬照寺は今から230年程前に火災に遭い、本堂が全焼した。この時、このカツラも被害に遭い、主幹は伐採されて、本堂再建用に用いられ、今も縁側の板として残っている。幅2.1mの板がとれたというから、単幹のカツラとしては前例のない巨木であったようだ。現在の幹は、火事後芽生えたひこばえが大きく成長したもので、かつての主幹跡を取り囲むように株立ちになっている。

境内側から見た樹形。中心部に空間があり、主幹を伐採した痕跡であろう。▶





◀写真 K-004

はくさん

白山神社のカツラ

白山を開山した泰澄大師が、この地で昼食に使った箸を地面に挿したものが根付いて、巨木になったと伝えられている。

多くのカツラの巨樹と同じように、何本かの幹と無数のひこばえの集合体からなる樹形をしている。しかし、それらが全て融合するという特異性があり、単幹樹に見える稀なカツラである。よく観察すると、明らかに叢生樹であることが判るため、単幹樹に分類しなかった。

近年、端の幹が台風で折れ、少し樹形が変わったが、それでも堂々とした安定感がある。

▼写真 K-005

めこしきやま

女甕山の大カツラ

荒々しい岩肌をした女甕山を背景に立つ、ロケーションの良い大カツラである。左下写真のように、根元3分岐のカツラであったが、2本は6mで連理する珍しいカツラ。背後の幹は現在崩れている。





▲写真 K-006
小友の千本カツラ
(写真 Web 画像)



▲写真 K-007
万助の大カツラ
(写真 Web 画像)



▲写真 K-008
子安地藏尊かつら
(写真 Web 画像)



▲写真 K-009
古屋敷千本カツラ



▲写真 K-010
諸和久のカツラ
(写真 Web 画像)



▲写真 K-011
大滝の大カツラ



▲写真 K-012
大古井の千本桂



▲写真 K-013
洞のカツラ
(写真 Web 画像)



▲写真 K-014
一ツ森林道のカツラ
(写真 石田徹)



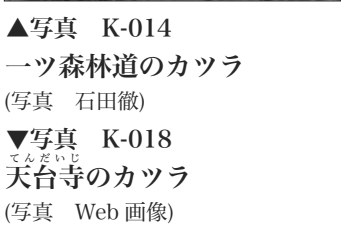
▲写真 K-015
玉取山の大カツラ
(写真 Web 画像)



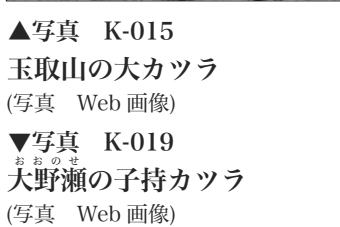
▲写真 K-016
岩屋のカツラ
(写真 石田徹)



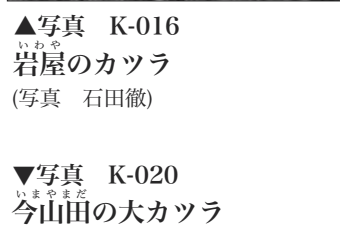
▲写真 K-017
下台瀬のカツラ



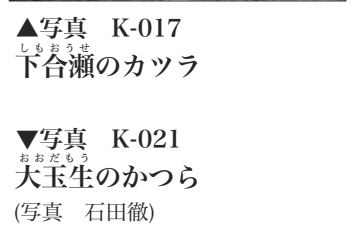
▼写真 K-018
天台寺のカツラ
(写真 Web 画像)



▼写真 K-019
大野瀬の子持カツラ
(写真 Web 画像)



▼写真 K-020
今山田の大カツラ



▼写真 K-021
大玉生のかつら
(写真 石田徹)





▲写真 K-022
西沢の大カツラ
(写真 Web 画像)



▲写真 K-023
大滝のカツラ
(写真 石田徹)



▲写真 K-024
おちがこうち
落河内のカツラ



▲写真 K-025
あんもん
暗門のカツラ
(写真 石田徹)



▲写真 K-026
ししほし
鹿橋の千年桂
(写真 石田徹)



▲写真 K-027
えんむす
縁結びのカツラ



▲写真 K-028
藤崎のカツラ
(写真 Web 画像)



▲写真 K-029
すがき
洲河崎のカツラ
(写真 Web 画像)



▲写真 K-030
岩間寺のカツラ
(写真 Web 画像)



▲写真 K-031
いど
井戸神社のカツラ



▲写真 K-032
岩崎の大カツラ
(写真 石田徹)



▲写真 K-033
赤倉のカツラ
(写真 Web 画像)



▼写真 K-034
うすいの
兎和野の大カツラ
(写真 石田徹)



▼写真 K-035
豊岡のカツラ



▼写真 K-036
あもう
天生のカツラ
(写真 Web 画像)



▼写真 K-037
板仕野のカツラ
(写真 Web 画像)





▲写真 K-038
シャロムの樹
(写真 Web 画像)



▲写真 K-039
こがねゆかつらふどう
小金湯桂不動



▲写真 K-040
未沢の大カツラ
(写真 Web 画像)



▲写真 K-041
みよがさ
明ヶ指のカツラ
(写真 石田徹)



▲写真 K-042
ぐんだり
軍刀利神社のカツラ
(写真 Web 画像)



▲写真 K-043
森の神様
(写真 Web 画像)



▲写真 K-044
藤九郎沢の千年カツラ
(写真 Web 画像)



▲写真 K-045
あしうしもたに
芦生下谷のカツラ



▲写真 K-046
いなり
稲荷神社の千年桂



▲写真 K-047
はつせ
初瀬のカツラ
(写真 Web 画像)



▲写真 K-049
小井田の千本桂
(写真 Web 画像)



▲写真 K-050
うしお
海潮のカツラ

▼写真 K-051
明神カツラ
(写真 Web 画像)



▼写真 K-052
じぞうくら
地藏鞍の大カツラ
(写真 Web 画像)



▼写真 K-053
栗沢の千本カツラ



▼写真 K-054
糸井の千本カツラ





▲写真 K-055
高坂の大カツラ



▲写真 K-057
竹崎のカツラ
(写真 Web 画像)



▲写真 K-058
大久保の桂の木
(写真 石田徹)



▲写真 K-059
道谷馬頭観音のカツラ



▲写真 K-060
別宮の大カツラ



▲写真 K-061
坂上のカツラ
(写真 Web 画像)



▲写真 K-062
小北川の大桂
(写真 Web 画像)



▲写真 K-063
小室浅間神社のカツラ
(写真 Web 画像)



▲写真 K-064
小野神社のカツラ
(写真 Web 画像)



▲写真 K-065
鎮西村のカツラ
(写真 Web 画像)



▲写真 K-066
久保の大桂
(写真 石田徹)



▲写真 K-068
山祇桂
(写真 Web 画像)

▼写真 K-069
金山川の大カツラ
(写真 Web 画像)

▼写真 K-070
広河原のカツラ
(写真 Web 画像)

▼写真 K-071
小池のカツラ
(写真 Web 画像)

▼写真 K-072
三方の大カツラ
(写真 Web 画像)





▲写真 K-073
しょうず
清水のカツラ
(写真 石田徹)



▲写真 K-075
しちぞうじ
七蔵寺の子持ち桂
(写真 Web 画像)



▲写真 K-076
粟田のカツラ
(写真 Web 画像)



▲写真 K-077
あかつ
赤津のカツラ
(写真 Web 画像)



▲写真 K-078
おおしみず
大清水のカツラ
(写真 石田徹)



▲写真 K-079
おまき
大又のカツラ
(写真 Web 画像)



▲写真 K-080
むらじ
村権のカツラ
(写真 Web 画像)



▲写真 K-081
すげの
菅野のカツラ
(写真 石田徹)



▲写真 K-082
てしみず
手水野のカツラ
(写真 石田徹)



▲写真 K-083
つみ
妻の神の古木
(写真 Web 画像)



▲写真 K-084
おひら
大横のカツラ
(写真 Web 画像)



▲写真 K-085
おの
獺河内のカツラ
(写真 Web 画像)



▼写真 K-086
ふくしま
福島大神宮のカツラ
(写真 Web 画像)



▼写真 K-087
はしかみ
端神の大桂
(写真 Web 画像)



▼写真 K-88
ほたる
螢の宮の大カツラ
(写真 Web 画像)



▼写真 K-089
わち
和地の大カツラ
(写真 Web 画像)



▲写真 K-090
川目の千本カツラ
(写真 石田徹)



▲写真 K-091
田代のカツラ
(写真 Web 画像)



▲写真 K-092
荒谷の桂藤
(写真 Web 画像)



▲写真 K-093
弘川の千本桂
(写真 Web 画像)

13-C シダレカツラの巨木

珍しいシダレヤナギのように枝垂れるカツラ。今から 600 年程前に、岩手県の早池峰山で原木が発見された。その原木は大迫町の妙泉寺に植えら、そのひこばえが瀧源寺にも植えられていたが、200 年程たった天保年間に用材にするため伐採された。現在のカツラはその切り株から芽生えたもの。原木の三代目ということだ。妙泉寺の原木はなくなったが、龍源寺のひこばえは他にも移植され、残っている。盛岡市の門地区にある「関口家のシダレカツラ」と「肴町のシダレカツラ」がそれで、どれも龍源寺と同じ程に成長し、大変貴重な巨木のため、国指定天然記念物に指定されている。



りゅうげんじ
▲瀧源寺のシダレカツラ (評価 A)

株周 4.4m 樹高 23m
岩手県盛岡市大ヶ生



せきぐちけ
▲関口家のシダレカツラ (評価 A)

株周 3.3m 樹高 22m
岩手県盛岡市門字真立
(写真 Web 画像)

さかなちよう
肴町のシダレカツラ▶
(評価 B)

株周 2.46m 樹高 19m
岩手県盛岡市肴町
(写真 Web 画像)

